



本草要編

四

15
1189
4



阿 1 5
號 1189
卷 4

本朝要樞卷之四

雜考

平安

去五味均平蔵



音の王都の名平安... 詩客文人... 洛陽と書... 今や天下... 栢武天皇... 歴代の天子... 洛水の... 各めて... 栢武天皇

本朝要樞

四

とてわき吾邦の號とほし傳へ終る天下通稱の号とる
あの中ま多し古來日中文字とて列の字とある事あり
ふ詩文章と書との雲別牧るく唐のころ事と好むより
列の字も通稱とたもつ

○後同十二人の后と稱するは後之后天子の書之后は後園の御
女とて内と心とまより後之后ありて御准后宮后宮
秘と十二人の御馬の女房之御侍に人乞と上賜と二二條
任しあるは或は天竺を來た女乞は任と侍に人乞と上賜
といふ宰相二位以上の女乞は上賜の御女乞は任と侍に人乞と上賜

二位之御侍は叙とまより上賜といふ女院人乞乞と中賜と
亦後之御下乞といふ乞は後之尾稻若の社月之位以上の
家の女乞と十二人の御馬といふ御女乞は任と侍に人乞と上賜
御侍とまより上賜といふ后とほし傳へ終る事ありて上賜といふも又の夜
とほし傳へ終る事あり
○後同凡そ後之御侍の叙とまより上賜といふ女院人乞乞と中賜といふ
後之御侍は叙とまより上賜といふ女院人乞乞と中賜といふ
御侍とまより上賜といふ后とほし傳へ終る事ありて上賜といふも又の夜
とほし傳へ終る事あり
御侍とまより上賜といふ后とほし傳へ終る事ありて上賜といふも又の夜
とほし傳へ終る事あり



して興隆のりふひて名とてしうは是例の事致之は慶之
 より地名ありて徳教よりするは人よせらる舊事記は慶の社
 乃事と載せらるを以信のまの信達ふせらる事と知るべし
 ○今事麻園村大退村を信授りし人の信達は是れ美
 之の秘文と唱之摩利支天と申云坐佛と称むといふ事致ふ一
 致とて一書とて人か申せらるる事と申すべし信達は
 乃乃の秘位ありて各 必傳本村の事致のりうりう別て
 日本上古の制ありて外はのりうりう知るべし人のいふこと日本は
 此き上人申さるる事とて申すべし日本は不詳なる所ありて乃

意皆本となめてらるる事ありて希まのりうとわらるる事とて
 日本此人ありて上古神教のりうを用ひて信だてりて其の文と唱
 事致ふ人か申す事と
 ○軍七書のり孔付陣乃法ありて孫兵とて主と久鬼が家
 子傳らる虎の巻とていふ大に匡唐黄石と傳ふ一流とて其の
 人軍とていふ事とて申すべし其の事とて申すべし其の事とて
 乃神軍は法とていふ事とて申すべし其の事とて申すべし其の事とて
 昔 邦乃軍とていふ事とて申すべし其の事とて申すべし其の事とて
 戦軍とて申す事とて申すべし其の事とて申すべし其の事とて申すべし

七段軍書と云ふ事ありてあはれ書成りし事あり日本と東弱き
人々を唐と日本との地理の別ありてあはれ書成りし事あり
之れも昔 皇の軍役の用ありし和軍の事ありてし書と捨よ
しよあはれ書と云ふ事ありてあはれ書成りし事あり

○日本東西の事候ふ事ありて男女子多く生る事ありて父母共
抱懐に令てはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
教令ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
く懐に令てはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
御事の事ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり

よも事と教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
のらふ活ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
と云ふ事ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
事ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
すの事ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
○ひらひら僧教と封と云ふ事ありてあはれ書成りし事あり
定流ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり
らひらひら僧教と封と云ふ事ありてあはれ書成りし事あり
て事ありてはくそ教へし其事ありてあはれ書成りし事あり

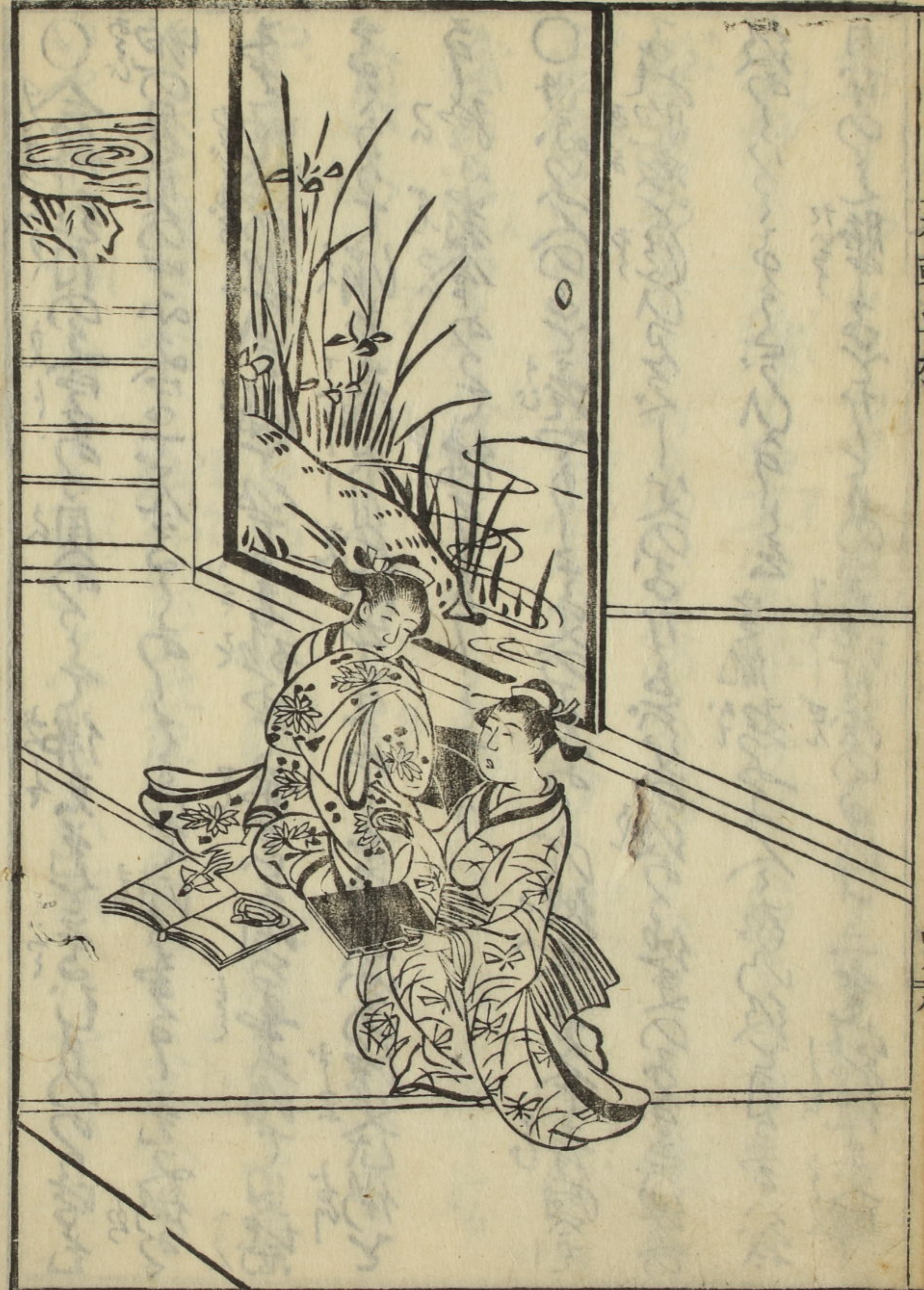
のかどろきくつらまゝ一々流のまゝ南朝の壇一柵の本をまゝ
 行枝のまゝ行く枝のまゝ行く若くは終はまゝ終をまゝ終の中り
 潮とまゝあつ海色はまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 出まゝあつはまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 或はまゝの海中に人面のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 亡華聖と成らまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 今信儀の禮まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 ○百人一首のうら祐子内親王家紀傳とのまゝと画するべし

とひて度り几帳といふまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 親王後朱雀天皇の皇女紀傳といふまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 て平安傳といふまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 清和の御事と強つて皇女のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 ○日本書紀なるまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 いた和歌まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 神代傳成位冠神といふまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 知りまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ



七
月
廿
五

五
時



一
本
轉
櫻
梅

四
時

てふ事なきを以て 日本に天竺神呪を傳へて教を弘む
 てさきくぬりてりまふりやんやそ又樹を事とす
 ○七月七日といふ星を以て 牽牛織女けんぎうぢよの二星とある事
 あり是を以て事とすあり二星はたゞりてさきくぬり
 してかき一星を以てりあう附合して前後とすけりて是の
 等の事とすて天文おまほ七月初七日の星を以て事とす
 して中星の初事なり 庶星の事も巡りてり是の事
 七月七日の星を以て事とす 牽牛織女の二星とある事
 是れを以て事とす 是れを以て事とす 是れを以て事とす

は後と書下て 諸神と御職 倭國と云ふ事ありて
 風雅の二ツかき今も 持て置きたりて 此理を以てり
 上より書下りてり 是れを以て事とす 是れを以て事とす
 天竺からてり 此を以て事とす 是れを以て事とす
 是れを以て事とす 是れを以て事とす 是れを以て事とす
 ○とて西書に似てり 是れを以て事とす 是れを以て事とす
 唐風よりてり 是れを以て事とす 是れを以て事とす
 官屋中とてり 是れを以て事とす 是れを以て事とす
 國としてた大臣とてり 是れを以て事とす 是れを以て事とす

け富後よ年号月日宣統前書よ叙すくありき
口宣の文めて是と交飲らふ御ふ田舎の人無おより
多と誤りて位記 口宣の事ふ及ずてさうふ無お
唱入事ハ大から遠ひあり

本朝要樞卷之四終

當世藻垣草

全紙四冊
初稿子法入

け書ハを此佛法よ永遠多くして地獄人
ある者多しと圖王乞と款き後統とらふ借よ
主得瓜瓞世人とてまはるる入らん
事ハ本一あり書あり

天明二年壬寅正月吉日

京師書林

寺町之京上所
兼屋安去清

